(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2011-186864
(P2011-186864A)
(43)公開日　平成23年9月22日(2011.9.22)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
G08B 25/04	(2006.01)	G08B	25/04	K	5C086
G08B 21/02	(2006.01)	G08B	21/02		5C087
G08B 25/10	(2006.01)	G08B	25/10	D	

審査請求 未請求　請求項の数 1　ＯＬ　（全 4 頁）

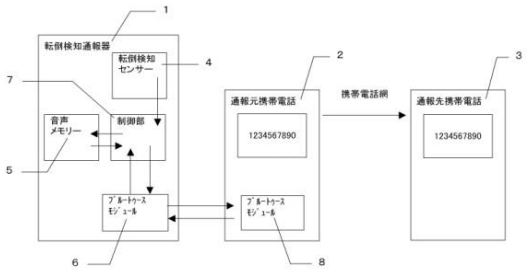
(21)出願番号　特願2010-52489(P2010-52489)
(22)出願日　平成22年3月10日(2010.3.10)

(71)出願人　000210403
竹中エンジニアリング株式会社
京都府京都市山科区北花山大林町６０番地の１
(72)発明者　諏訪部　晋正
京都市山科区北花山大林町６０番地の１
竹中エンジニアリング株式会社内

Ｆターム(参考)　5C086 AA22 AA49
5C087 AA02 AA03 AA40 BB12 BB20 BB72 DD03 DD35 FF02 FF04 FF16 FF23 GG23 GG66 GG67 GG83

(54)【発明の名称】音声通知機能を有するブルートゥース転倒検知通報器

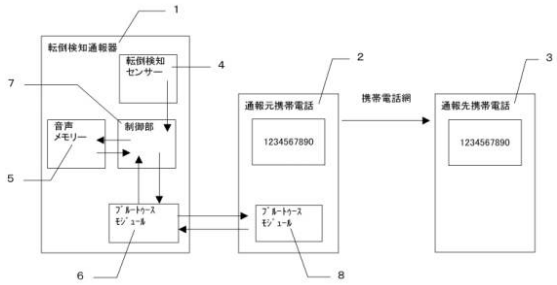
(57)【要約】
【課題】人の転倒を検知し、通報する転倒検知通報器において、人の転倒を検知した際の通報先の距離的制約を、数百mの範囲内の敷地内、又は構内等に限定されず。且つ、通報先が通報の有無を確認出来る範囲も限定されないこと。
【解決手段】人の転倒を検知した際の通報手段に、携帯電話のブルートゥース機能と携帯電話網を利用する事により、携帯電話が受話可能な地域全てで通報可能な機能を備える。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
人の転倒を検知し、通報する転倒検知通報器において、転倒検知通報器内にある音声メモリーの音声を、携帯電話のブルートゥース機能を用いることで、通報先携帯電話へ送信する機能を備えた通報機器。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、人の転倒を検知し通報する転倒検知通報器の通報手段に、携帯電話のブルートゥース機能を利用した音声通報システムに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来、転倒検知通報器の通報システムとして、特定小電力ワイヤレスにより通報するシステムがある。
特定小電力ワイヤレスを利用した通報機器の通報動作として、一般的に通報器と通報先との距離は１００ｍ前後に限られる為、中継機等を用いて通信距離を延長するが、それでも数百ｍの範囲内の敷地内、又は構内等に通報先が限定される。また、通報内容は通報元の送信機ナンバーのみが通報される為、ＬＥＤ等により表示とブザー等で鳴動し報知されるのみである。更に、一般的に通報先の機器は壁面等に固定されている為、通報の有無を確認出来る範囲は機器周辺に限定される。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
人の転倒を検知した際の通報先の距離的制約を、従来の数百ｍ範囲内の敷地内、又は構内等に限定されず、且つ、通報先が通報の有無を確認出来る範囲も限定されない転倒検知通報器を実現する。
【課題を解決するための手段】
【０００４】
本発明は、転倒検知通報器の通報手段に、携帯電話のブルートゥース機能と携帯電話網を利用する事により、携帯電話が受話可能な地域全てで通報可能となる。
【発明の効果】
【０００５】
本発明により、転倒検知通報器の通報先が、従来の方法では、数百ｍの範囲内の敷地内、又は構内等に限定され且つ、一般的に通報先の機器は壁面等に固定されている為、通報の有無を確認出来る範囲は限定されていたが、敷地内外、構内外問わず携帯電話が受話可能な地域全てで通報可能となる。また、従来の通報内容は通報元の送信機ナンバーのみが通報されＬＥＤ等により表示されるのみであったが、本発明により、予め転倒検知通報器内に録音した音声を、ブルートゥース機能を用いることで、通報先に音声にて用件を伝達することが可能となり、通報先携帯電話の所有者が転倒情報を知覚しやすくなる。
【図面の簡単な説明】
【０００６】
【図１】本発明による転倒検知通報システムの実施例を示した概念図である。
【発明を実施するための形態】
【０００７】
本発明は、図１のような通報システムを構成し、転倒検知センサー４と音声メモリー５とブルートゥースモジュール６とそれらを制御する制御部７を備えた転倒検知通報器１と、ブルートゥースモジュール８を内蔵した通報元携帯電話２にて実施する。なお、通報先に指定する通報先携帯電話３の電話番号が転倒検知通報器１及び通報元携帯電話２に登録された状態で運用される。また、通報先携帯電話３の呼び出し等は転倒検知通報器１の制御信号がブルートゥースモジュール６、及びブルートゥースモジュール８によるデータ送受

信機能を用いて、通報元携帯電話２経由で行う。
【０００８】
次に、人が転倒した際の信号の流れについて説明を行う。通常、転倒検知通報器１は、人の体に固定して使用される。転倒検知センサー４が人の転倒を検出し、通報動作を開始する。通報動作の内容は、人の転倒の検出信号をブルートゥースモジュール６、及びブルートゥースモジュール８によるデータ送受信機能を用いて、通報元携帯電話２に送信し、通報元携帯電話２が通報先の通報先携帯電話３を呼び出すというものである。
【０００９】
通報先携帯電話３の所有者が受話ボタンを押すことにより、ブルートゥースモジュール６、及びブルートゥースモジュール８によるデータ送受信機能を用いて、転倒検知通報器１に受話可能信号を伝達する。
【００１０】
転倒検知通報器１は、音声メモリー内の音声を、ブルートゥースモジュール６、及びブルートゥースモジュール８によるデータ送受信機能を用いて、通報元携帯電話２へ送信する事により、携帯電話網で繋がっている通報先携帯電話３に音声メッセージを通報する。これにより通報先携帯電話３の所有者は、転倒検知通報器１からの転倒情報を認識する事ができ、転倒検知通報器１は通報先携帯電話３の所有者に緊急通報が確実に行える。
【００１１】
通報先携帯電話３にて受取操作があれば、転倒検知通報器１は、ブルートゥースモジュール６、及びブルートゥースモジュール８によるデータ送受信機能を用いて、通報元携帯電話２から受取操作に該当する信号を検出する事で通報完了を確定する。
通報先携帯電話３が呼び出しに応答しない場合、登録された別の通報先携帯電話（図示せず）へ通報を行い、応答するまで登録された複数台の通報先携帯電話へ、順次通報を繰り返す。この時、通報先携帯電話あるいは携帯電話通信会社の留守番電話機能や伝言メッセージ機能により通話状態となった場合、通報先携帯電話の所有者（管理者等）が未確認でも通報機器が通報先携帯電話への通報を完了する。
【符号の説明】
【００１２】
１・・・転倒検知通報器
２・・・通報元携帯電話
３・・・通報先携帯電話
４・・・転倒検知センサー
５・・・音声メモリー
６・・・ブルートゥースモジュール
７・・・制御部
８・・・ブルートゥースモジュール

【図１】


1
転倒検知通報器
転倒検知
センサー
4
7
音声
メモリー
制御部
5
ﾌﾞﾙｰﾄｩｰｽ
ﾓｼﾞｭｰﾙ
6
2
通報元携帯電話
1234567890
ﾌﾞﾙｰﾄｩｰｽ
ﾓｼﾞｭｰﾙ
8
携帯電話網
3
通報先携帯電話
1234567890